

## 奈良県中央卸売市場運営協議会の概要

- 開催日時 平成28年11月28日(月) 午前10時30分～午前11時50分
- 場 所 奈良県中央卸売市場管理棟3階大会議室
- 出席委員 17名(順不同)  
浦出委員、小泉委員、松尾委員、川口委員、上田委員、楳田委員、山下委員、桑島委員、山口委員、松本委員、川井委員、松村委員、西川委員、吉田委員、川西委員、熊田委員、高谷委員
- 欠席委員 1名  
西谷委員
- 主な議題 奈良県中央卸売市場の現状と課題、及び今後の方向性について
- 主な議題に関する出席委員からの意見の概要

○時代のキーワードは「物語」である。物語が見える市場、或いは物語を見せる市場を作っていくことが重要。

○他市場との競合に勝ち抜く市場とするため、ブランド化したものを作り出すことが重要である。奈良県と近畿大学農学部とが協定を締結している。「近大まぐろ」がブランド化されているので、同大学と協力しながら、中央卸売市場で販売するルートを作ることを検討してはどうか。

○県は、政策の中で、中央卸売市場を重要であると位置づけていながら、その一方で、直売所や道の駅などを推進している。相反するように思えるので、整合性をとるべき。

○スケジュールについては、スピード感を持って進めていくべき。

○審議会は6年ぶりの開催であるが、今後は、適切な時期に開催していただきたい。

○一般市民が親しみを感じる市場づくりが必要である。

○国の規制緩和により小売店が衰退しているのは事実である。小売店の存在にも配慮した上で、市場改革を進めて欲しい。

○経営状況が好調である農家に対しては、中央卸売市場の機能は必要である。一方で、

生産基盤が脆弱化している地域では小規模な農家が地元の人たちに安全・安心なものを提供する直販事業が必要である。JAならけんとしては、これらが両立し、多様な生産者が所得を上げていけるよう方策を講じていく必要があると考えている。

○最近、直売所は飽和状態になっている。この状況が続けば、農家は、いずれ、中央卸売市場に出荷するようになると思う。

○消費者としては、安心・安全、そして新鮮なものを、より安く提供していただけると、うれしい。

○若い人たち（一般消費者）にもっと中央卸売市場に来て見学してもらえる工夫をしてはどうか。消費者にとっては中央卸売市場の見える化が必要でないかと思う。

○近畿大学との提携など、もっと消費者にわかるようにPRしていく必要があるのではないか。

○戦える市場とするためには集荷力が重要であり、生産者が市場に安心して出荷できるよう設備の整備が必要である。

○市場のブランド化ということを考えている。市場内で中食や外食向けの商品作りを行う企画も進めている。

○生産者の高齢化が進んでいる。そのような川上に関しては、市場としてJAさんと一緒に指導していきたい。また、川下に関しては、奈良の市場から買っていただける開かれた市場作りを進めていかなければならないと思っている。